

危険物取扱者 [乙種・性消(第2類危険物)・正誤(7)]

<一問一答>

正しい文章には○を、誤っている文章には×を、それぞれ記号で答えよ。

- (1) 第2類の危険物には水と反応してアセチレンガスを発生するものがある。 【 】
- (2) 硫黄は粉じん爆発のおそれがあるので、静電気の蓄積を避ける。 【 】
- (3) マグネシウム粉の火災では水による消火が有効である。 【 】
- (4) 赤リンの火災では二酸化炭素消火剤による消火が最も有効である。 【 】
- (5) 三硫化リンは七硫化リンよりも比重が大きい。 【 】
- (6) 赤リンは約400℃で昇華する。 【 】
- (7) 塊状硫黄は紙袋に入れて貯蔵することができる。 【 】
- (8) 加熱した鉄粉に注水すると、爆発することがある。 【 】
- (9) 亜鉛粉は水酸化ナトリウムの水溶液と反応して酸素を発生する。 【 】
- (10) マグネシウムの比重は1より小さい。 【 】
- (11) マグネシウムはアルカリ水溶液に溶けない。 【 】
- (12) マグネシウムの粉末は乾燥炭酸ナトリウムとの接触を避けて貯蔵する。 【 】
- (13) 固形アルコールは主として熱分解によって発生した可燃性ガスが燃焼する。 【 】
- (14) 固形アルコールは乳白色の固体である。 【 】
- (15) 引火性固体は常温以下であれば、火源を近づけても引火しない。 【 】

危険物取扱者 [乙種・性消(第2類危険物)・正誤(7)]

<一問一答>

正しい文章には○を、誤っている文章には×を、それぞれ記号で答えよ。

- (1) 第2類の危険物には水と反応してアセチレンガスを発生するものがある。 【×】
水と反応してアセチレンガスを発生するのは炭化カルシウム。第3類の危険物。
- (2) 硫黄は粉じん爆発のおそれがあるので、静電気の蓄積を避ける。 【○】
静電気の蓄積を避ける。
- (3) マグネシウム粉の火災では水による消火が有効である。 【×】
水と反応して水素を発生する。
- (4) 赤リンの火災では二酸化炭素消火剤による消火が最も有効である。 【×】
二酸化炭素消火剤は適応しない。
- (5) 三硫化リンは七硫化リンよりも比重が大きい。 【×】
七硫化リンは三硫化リンよりも比重が大きい。
- (6) 赤リンは約400℃で昇華する。 【○】
約400℃で昇華する。
- (7) 塊状硫黄は紙袋に入れて貯蔵することができる。 【○】
塊状硫黄は麻袋や紙袋で貯蔵できる。
- (8) 加熱した鉄粉に注水すると、爆発することがある。 【○】
鉄粉と水から水素を発生し、爆発することがある。
- (9) 亜鉛粉は水酸化ナトリウムの水溶液と反応して酸素を発生する。 【×】
水素を発生する。
- (10) マグネシウムの比重は1より小さい。 【×】
比重は1.7で、1より大きい。
- (11) マグネシウムはアルカリ水溶液に溶けない。 【○】
アルカリ水溶液には溶けない。
- (12) マグネシウムの粉末は乾燥炭酸ナトリウムとの接触を避けて貯蔵する。 【×】
炭酸ナトリウムはアルカリ性であるため、危険性は生じない。
- (13) 固形アルコールは主として熱分解によって発生した可燃性ガスが燃焼する。 【×】
蒸発によって発生した可燃性蒸気が燃焼する。
- (14) 固形アルコールは乳白色の固体である。 【○】
乳白色の固体である。
- (15) 引火性固体は常温以下であれば、火源を近づけても引火しない。 【×】
引火性固体の引火点は40℃未満。引火する危険性がある。